

コラム

# 地域から期待されるリエゾン機能

2021年4月

# 地域から期待される 「リエゾン機能（連携・橋渡し）」

## 地域の最重要施策「国際金融機能誘致 TEAM FUKUOKA」 「福岡スタートアップ・コンソーシアム」の事務局担う

国際金融機能誘致に向けた推進組織「TEAM FUKUOKA」事務局、ならびに政府の成長戦略である「スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市」の福岡市選定によって構成された福岡スタートアップ・コンソーシアムの事務局をFDCが担うなど、地域の最重要施策を展開する際にFDCの機能を活用するケースが続きました。

これは、FDCが有するリエゾン機能（連携・橋渡し）に対して地域の期待が高まっている証しだと私たちは考えます。

もともとFDCは、福岡都市圏を核として、九州、さらには隣接するアジア地域との連携を図り事業性のあるプロジェクトを推進していくことを目指してきました。産学官民に点在している力を連携させ、思いを持った人と人が結びつき意見を戦わせながら未来を考える場を積極的に作っていくことでまちの成長を加速。加えて近郊都市にある魅力とも連携させれば都市の魅力は一層増大すると考え広域での連携にも注力してきました。

そのため、行政区画にとらわれず、広域連携を促すことで福岡を「福岡都市圏」と捉え、福岡都市圏全体が成長して行く様々なプロジェクトをサポートしてきました。

さらに視野を広げ、海外の都市や都市圏とも連携を始めています。海外の多くの都市と連携していけば、そのまちの優れている点や課題解決の方法を福岡市のまちづくりに役立てることができると考えます。

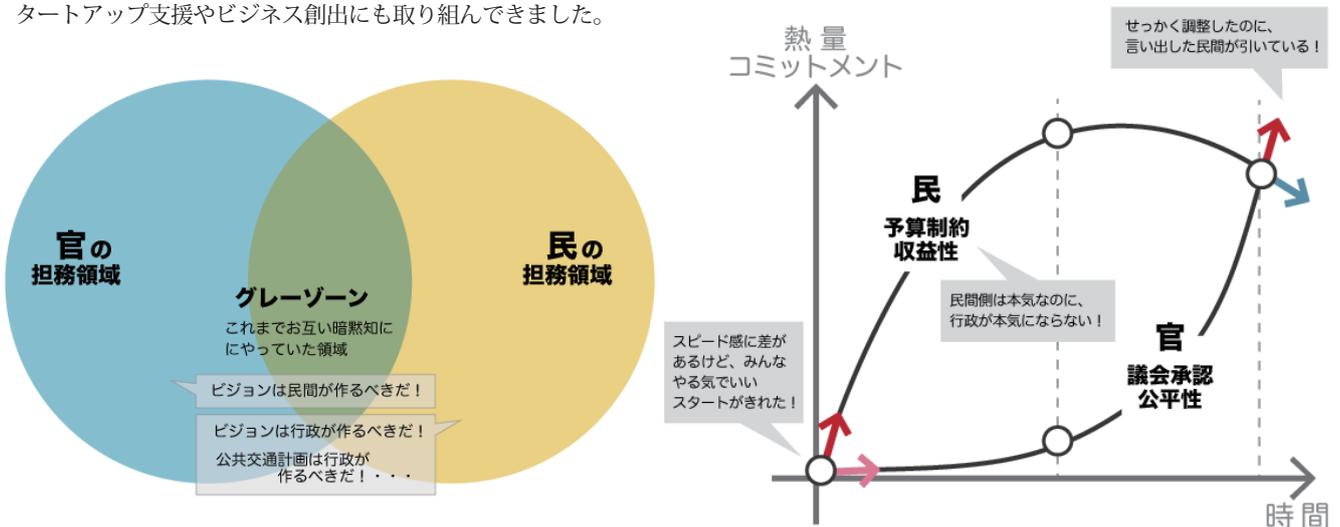
実際、ボルドーやエストニア、ヘルシンキなど世界のスタートアップ先進地域との連携協定を締結し、両地域におけるスタートアップ支援やビジネス創出にも取り組んできました。

一方でFDCはリエゾン機能を活用し、民間企業が自社事業として継続できるビジネスモデルと福岡市の社会課題との接点を見つけ出し、マッチングから事業立案、必要に応じて条例改正まで尽力し、自走モデルへと導く専門集団としての役割も担っています。

具体的には、技術とスピード感を持ち、早急にサービスを展開したい民間と、税金を投入して取り組む意義や市民の理解、公平性の検証が必要な行政の双方の価値観のズレを調整し、円滑なコミュニケーションを促す「リエゾン（連携・橋渡し）」的役割です。FDCというプラットフォームが関わり、福岡の住民起点の施策や意思決定の方法、地方から地域の方針を決めまちをつくっていくことで、産学官民の連携が増え打つ手が増えます。

今回、福岡における国際金融機能誘致に際し、地元経済界と行政をつなげまとめる役割、また政府のスタートアップ政策において、国と地域とスタートアップを連携させる機能＝FDCのリエゾン機能の活用が地域から求められたのだ、と考えています。

このように官と民との間に位置し、お互いの考えやナレッジをinterpreter（通訳）として繋ぎ、意思疎通を促すことで、行政計画と連動したビジネス創出や事業支援の取り組みへと昇華させていく。これからの都市の成長において、より一層リエゾン機能を発揮し、公共施策との連動をさらに進めていきます。



公共性、公平性、時間軸など、官・民それぞれのロジックが異なることを理解したうえで、それぞれが担うべき役割を線引きしつつ、調整とマネジメントを行うことが大切